

川崎市立南生田小学校 学校だより 第6号

南いくた

令和6（2024）年9月27日（金）発行

【学校教育目標】

心豊かで自らよく学び、
たくましく活躍できる子どもの育成

南生田小学校校長

羽深 東

「自分や友だちを大切にする子」を育てたい

秋分の日が過ぎて、木々のざわめきや澄んだ青空から秋の気配を感じるようになりました。先日、学校の廊下で、バッタなどが入った虫かごをもって外から帰ってくる2年生の子どもたちと会いました。2人の女の子が「教室で飼うんだよ。土日は家にもっていくの。」とうれしそうに教えてくれました。学校では、秋ならではの学習が始まっています。

さて、1月1日に大地震に見舞われた石川県に、今度は大雨が襲いました。日々テレビから流れてくる現地からの映像に、胸がつまる思いです。「寄りによってどうしてここで。」

これまでも何度か災害のことについて書いてきましたが、今回は別の視点で思うことがあり、書かせていただきます。

映像の中で、濁流に店が飲み込まれたご主人が、「この地で店を再開するのは非常に難しくなった。でも、地域のみなさんのために何とか1日でも早く再開する。」と力強く語っていました。また、たくさんの人たちが力を合わせて、行方不明の方を捜索する様子も映し出されました。テレビ局のインタビューには、涙ながらに「早く見つけてあげたい。」と切なる思いを話されていました。どのような地形だったかも、どこに家があったのかも分からないような惨状です。きっと自分のことでも精一杯のはずなのに、誰かのために行動したいという思いから生まれる行動なのでしょう。人ってなんて素晴らしいんだろう、人々に助け合う気持ちがあることによって、この社会は成り立っているということを実感しました

昨今、個を生かす教育の大切さが様々なところで言われています。一人一人に合った生き方・学びを社会全体で大切にしなければいけません。自分のことを肯定的にとらえ自信をもつことは、先の見通しが立たない現代社会を生きていく上では、非常に大切なことです。本校でも一人一人に合った最適な学びを目指し、授業改善に取り組んでいます。

ただ一方で、「他人のことより自分のこと」とか「自分さえよければ」といった世間の風潮も、悲しいことですが感じられることもあります。みんな誰かに助けってもらったり支えられたりしながら生きてきたはずなのですが……。本来の個を大切にするという意味が履き違えられているのでしょうか。

南生田小学校の学校教育目標には3つの柱があります。「進んで学ぶ子」「心豊かな子」「しなやかでたくましい子」の3つです。「心豊かな子」の目指す子ども像の姿の一つに、「自分や友だちを大切にする子」があります。子どもたちには、小学校生活の中で「人の力になる」ことの喜びやその大切さが感じられる感性を身につけてほしいと思っています。

P T A活動や地域の見守り活動などは、まさに子どもたちの目指す姿だと思っています。ご多忙の中、何とか時間を工面して、自分の子どもだけでなく、南生田の子ども全員のことを考えて日頃より活動して下さっております。子どもたちの心には、じんわりとその姿は染みわたっているはずです。そのお気持ちに対し心より感謝申し上げます。ありがとうございます。